

学習内容報告書 2

| | |
|-----|----------------------|
| 学校名 | 宮崎県串間市立市木小学校 |
| 授業者 | 永友智子・矢野万里子・矢野恵美・佐藤尚子 |

1. 単元計画

1-1. 単元名

| |
|------|
| 海を知る |
|------|

1-2. 学年

| |
|--------------------------|
| 全学年（ただし、SUP 体験は 5、6年生のみ） |
|--------------------------|

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

| |
|---------------|
| 総合的な学習の時間・生活科 |
|---------------|

1-4. 単元の概要

| |
|---|
| <p>○海を知る</p> <p>①海の生き物・・・幸島近海に生息する海洋生物について調べる。（自由研究等）</p> <p>②海を学ぶ・・・体験談を聞く（教育講演会を含む）、防災教育との関連内容</p> <p>③川と海のつながり・・・SUP 体験（5、6年生）</p> <p>①については、夏季休業中の自由研究等での実施であり、児童と保護者が地域の自然に親しみながら、知識・理解を深めてもらうように呼びかけた。従って、教育課程内での時数計上は行わない。</p> <p>②については、外部講師を招いて「海のすばらしさ」についての講話をしていただいた。この講演会は、全校児童だけでなく本校の保護者にも呼びかけ、多数の参加のもとに実施できた。また、1月の参観日には防災教育との関連を図り、外部講師の協力のもとに保護者と児童が一緒になって防災に関する学習を実施した。</p> <p>③については、5、6年生を対象として、外部講師を招いて校区内の市木川の古都橋付近から河口までの区間で、SUP（スタンドアップパドル）体験を実施した。実施当日は天気にも恵まれ、5、6年生児童は貴重な体験ができた。</p> |
|---|

1-5. 単元設定の理由・ねらい

| |
|---|
| <p>○ これまで知らなかった身近な海の海洋生物を知ったり、海に関わる人の具体的な話を聞いたり、川と海のつながりを実感したりすることにより、海を今まで以上に身近なものとして捉える。</p> <p>○ 海を含めて防災について具体的に学ぶことで、防災に関する意識と危険回避能力を育てる。</p> |
|---|

1-6. 育みたい資質や能力、態度

| |
|---|
| <p>○ 自分たちの身近な海にはどのような生き物が生息しているのかを詳しく知るにより、海だけでなくそこに生息する生物にも愛情をもって接する態度を育みたい。</p> <p>○ 海に関する様々な知識を身に付けることで、安全に海と関わる態度を身に付けさせたい。</p> |
|---|

1-7. 単元の展開（全 6時間）

| 時数 | 学習活動・主な内容 | 教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等 |
|----|---|---|
| 0 | <p>【海の生き物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が興味・関心のある海の生き物について、夏休みの自由研究として調べる活動に取り組んでみる。 ○ 日常的に図鑑や参考図書を活用して海の生物について調べてみる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 夏休みのテーマの一つとして、興味・関心のある海の生物について、書籍やインターネット等を活用して調べるように助言する。 <p>評) 自分なりの視点で海の生き物について調べることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自由研究以外でも日常的に海の生物に関心をもたせるような声かけを行う。 |
| 2 | <p>【海を学ぶ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育講演会として海に関する話を聞くことで、今まで以上に海に関する知識を高める。 ○ 地震や津波等の発生を想定した自然災害に対応するための正しい知識を身に付ける。 | <p>評) 講師の話真剣に聞き、海の楽しさだけでなく、自然の脅威等についてもある程度理解することができたか。(外部講師の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海で楽しく過ごすためには、海の危険も知っておく必要があることを助言する。 <p>評) 登校班ごとに、津波などの災害に遭遇した場合の正しい行動を理解できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活で、災害に遭遇した場合の具体的な対応についても理解させる。(保護者の協力) |
| 4 | <p>【川と海のつながり】(SUP体験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 陸上でSUPに関する基本的な知識・技能を身に付ける。安全面の配慮から、ボードから落ちた際の対処の仕方についても学習する。 ○ 実際に一人一人がSUPで市木川を河口まで下る。川を下っている際は、川から見た風景も楽しむ。 | <p>評) 講師からSUPに関する基本的な知識・技能及び安全面の説明を聞き、具体的に理解することができたか。</p> <p>【学習協力者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフセービングクラブ 藤田氏 ・保護者多数 <ul style="list-style-type: none"> ○ 講師の説明で分かりにくい部分に関しては、個別に教師が補足説明する。 <p>評) 普段見ている景色とは違った川から見える風景を楽しむことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 川をゆっくりと下ることで、普段は気付かないようなことにも気付くことができるということを助言する。 |
| | | |

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 6 時間中の 3～6 時間目

2-2. 本時の目標

- SUP 体験を通して、普段は見ることのできない川からの景色を楽しむとともに、市木地区の素晴らしい自然を再認識する機会とする。
- SUP 体験を通して、川が海につながっていることを体感し、海同様に川に対しても愛着心や環境保護の意識を身に付けさせる。

2-3. 本時の展開

| 主な学習活動 / 反応 | 教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法) |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">○ 着替え・トイレ・移動準備を行う。○ 市木川の古都橋下の河原へ移動する。○ 河原で活動のはじめの式等を行う。 ○ SUP の基本的な技能について説明を聞き、陸上で実践してみる。<ul style="list-style-type: none">・ ボードでの立ち方、パドルの使い方等・ ボードから川に転落した際の対処法等 ○ 実際に SUP で市木川を下る。 ○ 講師の説明やアドバイスを聞きながら、ゆっくりと下っていき川から見る景色を楽しむ。 ○ 活動終了後のおわりの式等を行う。 (記念撮影も含む) | <ul style="list-style-type: none">○ 素早く着替えとトイレを済ませ、体育館前に整列させる。(水着の上に体育服を着用) ○ 交通安全に留意しながら一列で移動させる。 ○ 講師の方の紹介及び活動上の留意点等の確認を行う。(日程の説明等も含む) 児童全員ライフジャケットを着用させる。 【学習協力者】・藤田 氏 ・保護者多数 ○ 講師の方の説明をしっかりと聞き、まずは河原でボード上での立ち位置の確認及び動きやパドルの使い方を練習させる。 川の浅瀬にボードを浮かべ、ボードから転落した際の対処の仕方についても実際に練習させる。 評) 基本的な技能が身に付いているか。 ○ 一定の間隔をとりながら、児童各自が SUP で川下りに出発する。その際、講師や保護者が周囲の安全を確保しながら一緒に SUP で下っていく。 ○ 川下り中も講師の説明やアドバイスをしっかりと聞き、勝手な行動をしないように助言する。 また、下っている際には川から見える景色も十分楽しむように助言する。 ○ 河口についたら海岸に整列し、終わりの式を行い講師や保護者に感想や感謝を伝えさせる。 |

3. 今回の活動の自己評価

- 講師の方と保護者が SUP に必要な道具類を準備してくださったので、学校としての負担も少なく、活動のねらいをある程度達成することができた。事前のコースの下見を行った結果、計画の内容で多少の変更は生じてしまった。また、天候を考慮して熱中症の対策は十分にできていた。
- 活動に参加した児童は高学年ということもあり、SUP に関する説明を十分に理解し実践することもできていた。加えて、ボードから転落した際の対処についても練習していたことで、実際の活動中に転落しても慌てることなく適切に対応することができた。
- 活動後の児童の感想では、「ゆっくりと川を下ったことで地域の自然の素晴らしさを自分たちの目で確認できた。」「川が海につながっている部分が不思議だった。」といった内容が多かった。さらに、SUP の魅力に取りつかれた児童もいたようだ。
- 活動終了後に海から学校へ戻る手段については、講師や保護者の協力が得られたので助かった。



4. 今後の課題

- 今回の参加児童は7名であったが、次回以降は10名を超える児童が参加する予定であるので、道具類及び活動協力者（保護者も含む）の確保が課題である。
- 活動の実施時期が台風シーズンと重なるために、気象条件および河川の状況確認や熱中症に対する対策を万全に行う必要がある。
- 今後の活動実施においては、複式学級と費用負担を考慮して隔年での実施とし、費用面に関しては PTA 会計からの補助を得るために PTA 組織の承認を得る必要がある。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 本学習は、児童一人一人に SUP 体験をさせることに加え、地域の河川の状況を自分たちの目で確認させ、普段は見ることの少ない川からの景色を楽しませることで、地域の自然のすばらしさを再認識させることを意識している。実施においては、適当な河川があることや SUP 用の道具の確保が重要となる。
また、河川場所によっては水深が深いところもあるため、事前のコースの下見や安全面の手立て等が必要不可欠である。